



伊万里市男女協働参画懇話会 いまりプラザ

人は一人一人違う
—性のあり方は人の数だけある—

最近、ニュースや新聞などで『LGBT』という言葉を見聞きすることがありますが、この言葉を知っていますか。

LGBTとは、性的少数者（マイノリティ）の総称の一つで、レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（体の性と心の性が一致しない状態）の頭文字です。

日本では、7・6割の人がいるという調査結果（電通ダイバーシティ・ラボ『LGBT調査2015』）があり、これは単純計算で約13人に1人の割合となります。血液型がAB型の人や左利きの人と同じく、この割合といわれます。

内閣府の『人権擁護に関する世論調査（2012年）』では、LGBTの人権問題として32・6割の人が『職場、学

校で嫌がらせやいじめを受けることがあった』と答えています。

私たちが気づいていないだけで、真剣に悩んでいる人が身の回りにいるかもしれません。

今年4月から『伊万里市男女協働参画を推進する条例』が施行され、基本理念の一つに『性別に違和感がある人等への配慮』（第3条第6号）が示されています。

性のあり方は人の数だけあることを理解し、認めることが大切です。人を分類するのはなく「人は一人一人違う」ということに気づきましょう。

2016 同和問題講演会
考えよう身近な「人権」

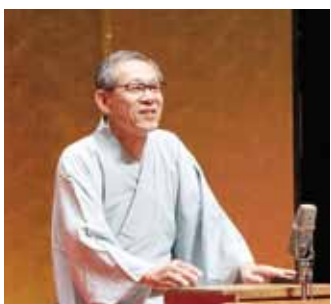
8月26日、市民センターで同和問題講演会が開催されました。これは、8月の同和問題啓発強調月間の取り組みとして、『差別のない明るいまちづくり』を推進し、同和問題をはじめとするあらゆる人権問題に対する市民の正しい理解と認識を深めることを目的に、市が毎年行っているものです。

今年も、元小学校教諭であり社会人落語家の切磋亭琢磨

さんを講師に迎え、『笑って考えよう身近な人権』と題して講演を行いました。

切磋亭さんは、身近な人権問題について気づいてほしいポイントなどを、落語を交えて紹介。歴史上の人物に男性が多いことや、英単語の語源が男性中心の考えから成り立っていることなどを挙げ、『今世紀は差別の根をなくす世紀にしていかなくてはならない』と呼びかけました。

また、教諭時代の経験談として、心臓の病を持つ児童と



↑「誰もがかけがえのない存在である」と語る切磋亭さん

そのクラスメイトたちが、学びや遊びを通して互いを思いやる心を持つようになっていった経緯などを紹介し、人々との関わりの中で生まれる人権意識の大切さを訴えました。

郷土の文化財

腰岳と黒曜石シリーズ⑦

● 問合先 生涯学習課文化財係

(☎) 33186

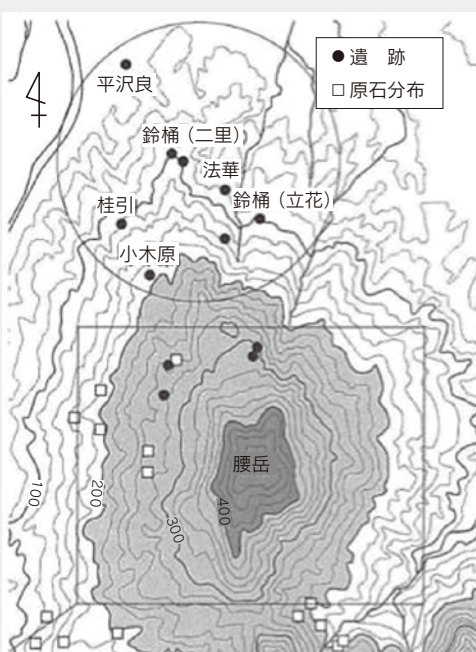
腰岳を見直す・腰岳の地形と黒曜石

今回は腰岳の地形と黒曜石の関係について説明します。

左は腰岳の地形図です。標高200〜400m付近の東側の等高線と西側の等高線を比べてみると、西側の等高線の間隔が広くなっていることがわかります。これは西側の斜面が地滑りを起

こしているからです。

腰岳では西側から北側にかけて、黒曜石の原石が多く散布しており、遺跡も集中しています。これは、地滑りによって地中から地表面に出てきた黒曜石を古代の人たちが使っていたためと考えられ、腰岳の地形と遺跡の新たな関係が解明されつつあります。



↑ 腰岳の地形図